



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内373)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
所報 No. 565
発行責任者 所長 河合 広映
発行日 令和4年 9月 16日
題字 山田 恭正 教育長



『自分たちの考えを
伝え合い、学ぶ
協働学習』
撮影 妻木小学校
高木 真琴 教頭先生

終わりを描くことから始める

土岐市教育研究所長 河合 広映

スティーブ・R・コヴィー「7つの習慣」の第2の習慣は「終わりを描くことから始める」が見出しとなっています。自分の人生の最後を思い描き、それを念頭に置いて今日という一日を始める。と書かれています。そこには、自分のお葬式を想像する様子も描かれていて、読み進めると衝撃を受けますが、つまりは、最後の姿を描くことにより、明日、1ヵ月先、1年先、10年先を見通しなさいというものです。同じように、他の読み物でこんな内容が書かれた文章を見つけました。「自分がどう生きるかではなく、自分がどう生きたかだ」と。宇宙の何億年という時間軸からしたら、80年とか100年という人間の寿命なんか、ちょっとの時間でしかない。だったら、死ぬ5秒前に「素晴らしい人生だった」と言って死にたい。そうした死ぬ間際に悔いのない人生だったと思えることが最も大事である、と。IDOM名誉会長の羽鳥兼市氏の言葉です。「現状維持か」「改善(改革)か」、「もうやめる」か「まだ続ける」か、という選択肢を迫られたら、私自身の性格上、高確率で「現状維持」や「もうやめる」を選択する可能性があります。「改善」や「まだ続ける」には大きな労力と時間がかかりますから。でも、「素晴らしい人生だった」といえるためにはどちらを選ぶ?と問われたら、「改善」や「まだ続ける」を選ぶ可能性は50パーセント以上には跳ね上がるのだらうと思うのです。切羽詰まった時、今しか見えていないときには、苦しいことは選ばない。でも、そこで出口を考えることができるのなら少し前向きになることができるのだと、感心させられました。

話が逸れてしまいました。「7つの習慣」では、終わりを描いて今日という一日を始める(言い換えればはっきりとしたビジョンを描いて、正しく進む)ためには、人生を支える4つの要素「安定・指針・知恵・力」のバランスが大切だと述べています。この4つの要素の中心には自分の核(大切にしているもの)があります。家族であるとか、仕事、友人、娯楽といったものです。現在、何を核にしているかによって、物の見方や考え方が左右され、時に不安定になることもあるのですが、「原則」に立ち返ることで安定を得られると述べられています。話が難しくなりそうなので、自分なりの解釈をすると、「原則」というのは「本質は何か」と考えることや「普遍的な考え方・大切な考え方」などのことかなと想像しています。その原則に立ち返って先を見たり、行動したりすれば、この4つの要素が高まり、互いに良い影響を与え合って他人依存から自分自身をコントロールできるようになると述べられています。つまり、自分自身をマネジメントできるようになるというものです。本書の中では、マネジメントは「正しく行う」ことであり、リーダーシップは「正しいことを行う」こととあります。試練や困難にぶつかったときにこそ、「何が正しいのか、本質は何か」とともに「正しい行動とは何か」を考えることが重要であるというものです。試練や困難にぶつかった時ほど、なかなか冷静ではいられないものですが、そこで、一度立ち止まって「どうなりたいか」という終わりをイメージする冷静さを持つことが自己マネジメントの第一歩なのかもしれません。



柳のように



下石小学校長
後藤 淳

教育に関わり、諸先輩方から学んできたことは、「なるほど」と思えることばかりです。特に、校長という職となり、論語の『和して同ぜず』という言葉が頭に浮かびます。周囲と協調しながらも、自分を見失うことがないように心掛けています。しかしながら、刻々と変化する子どもを取り巻く環境、また学校の担う役割の多様化、教職員の働き方改革等、取り組むべきことの多さに、流されている自分に気付くことがあります。本校の先生方の子どもへの熱意で、自分を取り戻すこともあります。柳のようにしなやかに、それでも芯の部分曲げることのないよう、学校教育で大切にしていることを述べます。

1 凜とした姿 品格

校内を回っていると、目にとまる子どもの姿があります。足裏が床にきちんと着き、背筋がすっと伸びている座り姿です。そうでない姿が多いので、余計に目にとまるのかもしれませんが、個人的な主観によるものですが、凜とした姿から、その子どもの品格を感じます。

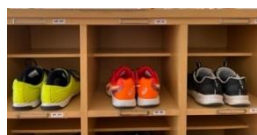
同様に「学校の品格」というものもあるように思います。本校の職員玄関に、長野県円福寺の和尚 藤本幸邦(ふじもと こうほう)さんの「はきものをそろえる」という言葉が掲示してあります。



『はきものをそろえると 心もそろう』

心がそろうと はきものもそろう』

児童玄関の様子を観ると、今まで赴任した学校では、下駄箱に入っていない靴が何足かありましたが、本校では、自分の下駄箱に靴が入られ、さらにはかかどが揃えられています。また、雨の日の傘は、ほとんどの傘が、広げられないように留め具でまとめられています。中学年以上は、100%です。日常生活のちょっとした事ですが、下石小学校で大事にされてきたことが、学校の品格につながっていると感じて



います。「見栄え」ととらえる向きもありますが、下石の子どもたちが場所が変わっても同じようにでき、大人になっても自分の子どもに伝えていけたらと期待しています。



2 「教育のプロ」と自信をもって言える教師

以前は、一流といわれる大学に入り、一流といわれる企業に就職することが、将来を保証するような風潮であったように思います。いつの間にか、終身雇用という考え方は薄まり、働きがいや生きがいが重視され、転職サイトのCMも毎日聞こえてきます。また、人権が重視され、マジョリティー(多数派)からマイノリティー(少数派)に焦点が当たり、一人一人の生き方や考え方に耳を傾けるようになってきています。「同調圧力」という言葉も聞こえてきました。たとえ少数派であっても、自分の考えを主張し、広めることに価値があり、焦点が当たるようになってきたと感じています。

多様な価値観が混在する中で、子どもたちに、「こうしていけば、大丈夫」と伝え難くなっていることを感じています。また「～すべき」という価値観の押し付けもふさわしくない状況も出てきています。誰も正解が分からず、明確な方向が示されないまま、社会を生きていく子どもたちは、自分の生き方に責任をもち、生き抜く力をつけていかなければいけません。教育のプロである私たち教師は、目の前にいる子どもの10年後20年後を見据えながら、子どもと一緒に考えて、導いていく指導がさらに必要となってきました。「TeachからCoachへ」という言葉が示すように、指導観に修正を加える必要が出てきています。本校では今年度「主体性を育て、伸ばす」ことを重点にしています。「自分で、自分から」をキーワードにしなが、子どもへの声掛けの仕方をも意識している先生方がみえます。柳のようにしなやかに自己変革されている姿は、まさに「教育のプロ」であると思います。私自身「教育のプロ」と言い切ることができるように、学び、自己変革を続ける教師でありたいと思っています。

今の課題は、教育について、互いに語り合う時間を生み出すことです。

『笑顔と安心感』

土岐津小学校附属幼稚園 園長 知原 勝成

1 基盤となっているもの

幼稚園に勤務して3年目を迎えている。

今、一番に感じていることは、5歳児(年長児)の様子を見ながら「3年間でこんなにも成長していくのか・・・。」ということである。

一人一人の言動や友達との関わり方などに、思わず目を細めてしまうような場面に出くわすことがある。園児たち一人一人の純真な心や豊かな感受性には、何にも代えがたい尊さがある。

もちろん先生方は、園児一人一人と向き合いながら一喜一憂の日々である。個を理解し、発達段階を踏まえた指導・支援の積み重ねこそが、今の園児たちの明るく元気な姿、そして、保護者の方の安心感を生み出している。

園児の一つの成長(排泄が園のトイレでできるようになった・・・等)に感激し、保護者の方が涙を流されることもある。

そうした保護者の方と先生方は毎日、登園時、降園時に声を交わしている。保護者の方の声にじっと耳を傾けながら、園児の様子について伝え、個に応じた指導・支援の在り方について理解が得られるよう努めている。

そこから生まれる保護者の方の笑顔、そして園児たちの笑顔が、先生方の笑顔や充実感にもつながっている。

園児、保護者、そして、先生方の笑顔(安心感)こそが日々の教育・保育の基盤となっているように思われる。それを基盤とすることができる先生方の努力に感謝している。

2 土岐津小学校とのつながり

7月に校区の保育園、こども園など複数の施設(私立含む)と小学校1年生との交流の会「はじめましての会」が小学校にて開催された。

事前に他園、小学校1年生の先生方との打ち合わせの場が設けられ、本園年長児の担任が交流の仕方について提案した。

当日は園ごとに分かれて1年生と交流したが、それぞれの園の年長児が初めて顔を合わせる場になった。

交流の始めは緊張してうつむいている園児もいたが、手遊びなどを通して一気に雰囲気が変わり、夢中になってゲームを楽しむ姿が見られた。教室がまさに笑顔でいっぱいになり、その変容に驚かされた。

1年生の子供たちが優しく園児に声をかける姿、担任の先生の指導にてきぱきと応える姿など、卒園児たちの成長した姿にも感動した。

小学校、幼稚園の先生が目標を共有し、子供たちを指導する貴重な機会となった。(2学期は小学校の提案で開催される予定である)

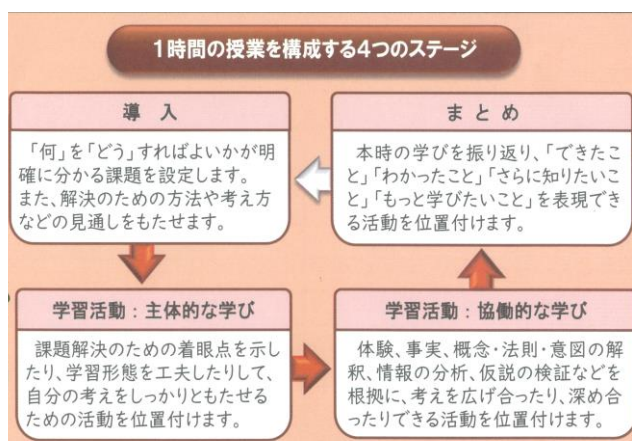


小中学校の学力向上推進 ～ 学校訪問を通して ～

学力向上推進リーダー 中村 勝（泉小学校 教頭）

今年度、学力向上推進リーダーとして市内各小中学校の教育長訪問に同行させていただいています。各校の先生方の授業参観、教務主任や研究主任の先生との懇談を通して、各校の研究やその取組、指導法について伺い、その成果を学んでいます。

ここでは、各学校の取組やその成果を紹介し、市内の先生方と共有します。それにより土岐市の教育がより一層高まり・深まりをもち、子どもたちがさらに意欲をもって主体的に学習に取り組み、「できた」「わかった」を実感できるような授業をつくり出すことを目指していきたいです。



【図1 令和4年度「土岐市スタンダード授業」】

今年度の第1回学力向上推進委員会では、令和4年度「土岐市スタンダード授業」（図1）をもとに、以下のような重点を設定しました。

- ＜今年度の土岐市全体の指導の重点＞
- ①「やってみたい」を生み出す具体的な課題
 - ②「できた」「わかった」を実感する終末の振り返り

この2つの重点を中心に、授業参観や懇談を通して学んだ各校の取組です。参考にしていただくとともに、各学校の研究に取り入れ実践していくことで、紹介させていただいた学校への恩返しとしたいと思います。

【下石小学校 6 / 1】

【研究主題】

課題の解決に向けて粘り強く取り組む児童の育成～仲間との対話を通して、考えを広げ深める算数科授業の在り方～

【研究内容1】

深い学びを実現する「見方・考え方」を大切にした指導の工夫

- ①「見方・考え方」にせまる発問の工夫と価値づけ
- ②ICTの活用

【研究内容2】

考えを広げ深める対話活動の工夫

- ①全員参加・全員理解を目指す全体交流
- ②出口を明確にした小集団活動

【研究内容3】

単位時間における終末の見届け

- ①付けたい力が身に付いているかを確実に見届ける評価活動

下石小学校は、大変落ち着いた環境の中で授業が進められています。「落ち着いた環境＝学ぶための環境」が整えられていることで、子どもたちの「安心して話せる」「仲間に聞いてもらえる」という思いに直結していると感じました。心理的に安全な場所が、子どもたちの学びを深めることにつながっていると思います。

また、対話を大切にした学習が進められました。小集団の交流で、自分の考えを確かなものにするとともに、子どもたちの考えが高まり、深まり、焦点化されていくように、ハンドサインを活用（必要に応じて意図的指名を活用）した授業が進められていました。

子どもたちにとって「必然のある課題」が明確に提示されることで、何について考え、発表すればよいかを理解し、見通しをもつことができます。そして、ハンドサインを活用し、対話を通して追究を続けていくからこそ、終末で「何を振り返るのか」が明らかになり、児童が「できた」「わかった」を実感することにつながっています。



【濃南小中学校 6／20】

【研究主題】

主体的な学び合いを通じた確かな力の育成

【研究内容1】

小中一貫した指導計画の工夫・改善

- ①9年間の学習内容の系統性・連続性と育成する資質・能力を位置付けた単元指導計画や単元構想の工夫
- ②児童が主体的に学ぶ濃南タイムや言語活動を位置付けた単元の工夫

【研究内容2】

仲間と学び合う濃南タイムを位置付けた指導計画の工夫

- ①教科の見方・考え方を働かせ、仲間と交流することで理解や考えが深まる喜びを味わえるような必然性のある濃南タイムの位置付け
- ②学び合いの深まりを自覚させる教師の意図的な働きかけの工夫

【研究内容3】

ICT機器を活用した授業

- ①課題追究や課題解決に向かう意欲を促す効果的なICTの活用の工夫

濃南小中学校の参観で感じたのは、小中連携の重要性です。小中一貫型小学校・中学校の特徴を生かし、教科担任制に加えて小中9年間を見通した年間指導計画を作成しています。

また、小中の教員と一緒に教科部会を行っていると同いました。各教科でねらいや目指す姿が共有できれば、一単位時間の授業における課題化、学習過程、終末の振り返りを具体的に計画し、実践することができるようになります。義務教育の入り口と出口を見通した意図的な指導につながっています。

さらに、すべての指導案に今年度の土岐市全体の指導の重点が位置付いていました。どの場面でどのような手立てで指導するかが、明確に示されていました。校内で確実に共有し、小中が連携しながら学力向上を推進する動きをつくり出している点が素晴らしいと感じました。

今後は、小中での授業交流をさらに進めていくそうです。これは、濃南小中学校の強みであり、子どもたちにズレのない教育を行うことができ、学力向上につながると考えます。小中連携による継続した指導。子どもたちに力が付かないはずがありません。



【土岐津中学校 6／27】

【研究主題】

主体的に活動し続ける生徒の育成

～ 話し合い活動を通して ～

【研究内容1】

主体性を高めるための話し合い活動の工夫と充実

- ①学級の実態に応じた必然性のある課題設定
- ②学級目標を意識した話し合い活動

【研究内容2】

よさや変容を実感できる振り返りの位置付けと見える化

- ①仲間を認め合う生徒相互の評価
- ②学級の高まりを価値付ける教師による評価

土岐津中学校では、班交流が大きな財産となっていました。それは、研究内容1-①「学級の実態に応じた必然性のある課題設定」にあるように、授業の出口の姿が示されていることで、「何を話し合うべきか」が明確になっているからだと感じました。参観した授業では、生徒同士の活発な交流が行われ、「わからない」が「わかる」に変わる瞬間を見ることができました。これこそ「学力向上」の姿だといえます。

これは、「学級で何を目指すべきか」という「学級経営」にも生かすことができます。上記の姿は、「話し合い活動」が研究の副主題として設定され、「聞く・話す」などの学習の基盤が徹底されているからだと感じます。

また、研究主任の先生からは、できたことを「ほめる・ほめ続ける」ことを大切にしていると伺いました。子どもたちの自己肯定感や自己有用感につながっているといえます。

安心して話せる環境があること、班交流のめあてが明確になっていることで、仲間との交流がより活発に行われています。その結果、学級集団の高まりがみられるようになります。まさに、研究が形となってきたことが実感できました。



【駄知中学校 7 / 8】

【研究主題】

個が育ち、集団が高まる学級経営

【研究内容1】実態調査の実施と活用の工夫

- ①ステージ計画の作成と活用
- ②生徒の実態把握と分析

【研究内容2】

一人一人が存在感を実感できる指導の工夫

- ①仲間のよさに気付く場の設定
- ②個の役割の位置付け

【研究内容3】

対話的で深い学びのできる授業の工夫

- ①課題を焦点化し、共有するための導入の設定
- ②思いや考えを伝え合う場の設定

駄知中学校の指導案で一番印象的だったのは、学習過程の記述です。どれも「導入—主体的な学び—協働的な学び—まとめ」という流れで指導案がつくられています。中には、「協働的な学び—主体的な学び」と、順序を入れ替えている先生もみえました。土岐市のスタンダード授業の単位時間の流れが意識されていると感じました。主体的な学びと協働的な学びを入れ替えているということは、先生方が授業を練る中で、本当に必要な授業過程を意図しているということではないでしょうか。主体的な学びと協働的な学びがスパイラルとなることで、子どもたちの学習意欲が喚起され、それが学力の定着につながっているのではないかと感じました。

また、教務主任と研究主任の先生からは「中学校は、小学校の指導のおかげで…」という話を伺いました。この言葉に、小中連携の重要性が表れているように感じます。駄知小学校でも、「駄知中学校へつなぐ」という意識をもち、連携しながら日々の指導が続けられているのだと思います。駄知中学校区の研究実践を通して、小中9年間を見通した指導の積み上げの充実が図られていることを実感しました。



【駄知小学校 7 / 11】

【研究主題】

個が育ち、集団が高まる学級経営

【研究内容1】

見通しをもち、仲間と願いを共有した生活を送るための工夫

- ①ステージと行事、学級活動の(1)(2)(3)、道徳、国語科の話し合い活動を位置付けた35時間の年間指導計画の作成
- ②一人一人のつまずきに対する理解と共感のある支援・見届け

【研究内容2】

自分のよさに気付くための指導の工夫

- ①教師による価値付けの明確化
- ②自分の高まりを実感できる場の設定

駄知中学校区で同じ研究主題を位置付け、小中連携が図られています。小学校でどのような力を付けて、中学校へスムーズにつなぐことができるのかを考え、研究内容が決め出されています。

駄知小学校では、「個」の育ちを『自己肯定感』として、「集団」の高まりを『社会性』としてとらえています。つまり「自己肯定感を高め、社会性を高める学級経営」を目指しているといえるのではないのでしょうか。

自己有用感の高揚は、今年度、土岐市の研究の重点の根本となる『安心して学べる』学級づくりにつながります。図工の授業では、仲間の作品のよさを、「わざ」に注目して鑑賞していました。互いの作品をじっくり見て、よさをたくさん発見しようとする姿が印象的でした。個人で追究したり、仲間との交流によって課題解決を図ったりすることで、個と集団のスパイラルが生まれ、個も学級も高まっていくことになると考えます。

学力向上と学級集団の高まりは、同じ道筋・同じ手順を進めていくことができると感じました。小中が連携して、学力と学級集団の高まりを目指す。土岐市全体で大切にしていきたいです。



【妻木小学校 7 / 13】

【研究主題】

主体的に学び合い確かな学力を身に付ける
児童の育成

【研究内容1】

課題設定のあり方

①児童に問題意識をもたせる課題設定

②学習に見通しをもたせる工夫

【研究内容2】

対話的な活動のあり方

①目的を明確にした対話的な活動

②目的とする姿に達するための工夫

【研究内容3】

定着状況の見届け

①終末における児童の姿の明確化

②評価問題による定着の見届け

妻木小学校の研究は、土岐市スタンダード授業や今年度の重点と合致しています。「課題→学習活動→終末」の流れで研究が進められているということです。

また、NRTの分析結果が校内で共有されており、それを受けてブロック研や家庭学習への働きかけが計画されています。

下石小学校や西陵中学校と連携して進めていくことで、昨年度の発表会以降も西陵中学校区の実践が深まっていると感じます。

さらに、昨年度の成果である「授業に向かう導入」と、「意見交流の必要性への意識化」が、今年度の研究に生かされていました。

特に、指導案には子どもたちが疑問をもったり、解決の見通しをもったりすることができるような導入場面の手立てが具体的に示されていました。課題提示を終えて個人追究の場面になると、「やった!」「早くやりたい!」という声が上がりました。主体的な学びにつながる姿でした。本時のねらい(出口の姿)から、児童の「やってみたい」を生み出すために、導入で何を提示し、どう気付かせ課題につなげるかを明確にすることを大切にしています。



【6校の学校を訪問して】

さて、ここまで授業参観や懇談等を通して学んだことをまとめました。どの学校においても、研究主題や研究内容に「課題化」「振り返り」にかかわる部分(※下線)がありました。文言になくても、教務主任や研究主任の先生との話から、その思いを込め取組をしていることが分かりました。

また、研究を進めていく上での根本となる「自己有用感の高揚」を図ること(※下線)が大事にされ、研究とかかわらせて進められている学校が多くありました。

子どもたちにとって、学校が「心理的安全な場所」になっていたように感じます。子どもたちが安心して学ぶ環境が整い、研究が進められているのではないのでしょうか。

研究内容では、「何」を課題とし、「どのような指導・振り返り」を行えば、「できた」「わかった」を実感することができるのかが明らかになっています。そして、その内容が全職員で共有されているからこそ、成果と課題が明確になります。それが子どもたちの学力向上につながれば、これ以上の喜びはありません。

最後に、どの学校でも「ICT機器を活用した授業」が行われていました。課題に向けた導入や、交流の場面、振り返りの場で意見の集約などに活用されていました。また、ロイロノートグループの仲間が同時に操作しながら考えをまとめていく場面もありました。ICT機器の活用が日常化され、文部科学省の求めている「ICT機器=文房具」として効果的に活用されつつあることをうれしく思いました。

先生方の日々の実践が、子どもたちの学力向上・学習意欲につながります。各校の取組やその成果を共有し、実践されることで、より一層「できた」「わかった」を実感できる授業がつくられるものと考えます。





令和4年度 土岐市ICT教育推進目標

ICT機器の効果的な活用を通して、「子どもたちの主体的・協働的な学び」と「どの子どもわかりやすい授業」を実現する

令和4年度 土岐市 ICT 活用指標

4月から7月の活用指標

どの先生も、拡大して提示できる。



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

図引用 教育の情報化に関する手引き (文部科学省 令和元年12月)

アンケート結果

- 先生が教科書、デジタル教科書(対象教科)をプロジェクタ(大型TV)で拡大して提示する。91.2%
- 先生(子ども)がスクリーン(タブレット上)に書き込んで課題を焦点化する。79.6%
- 先生(子ども)が手本やポイントを静止画・動画等でわかりやすく提示する。86.7%

< ICT活用指標の実践事例の紹介 >

土岐市では、令和3年度に大型プロジェクタとスクリーンまたは、大型ディスプレイを各普通教室に導入しました。これまでのテレビ画面が小さくて見づらいつ況を改善し、大きく見やすい環境を実現しています。大きく映し出せる環境を授業でどのように生かせるのか、市内各学校のICT推進担当の先生から実践事例を集めましたので、紹介します。

【事例①：先生が教科書を拡大して提示する】



教科書を映し出して説明しています。以前は「教科書の〇ページをみてください」「教科書の資料1の右端あたりをみてください」など、言葉で説明をしていました。言葉の説明の

みでは、どこの部分を説明しているのか即座に理解することが難しい子どもにとっては、その時点で「わからない」となっていました。大きく提示して指し示すだけで、伝わりやすさが向上します。

【事例②：子どもがスクリーンに書き込んで課題を焦点化する】



子ども自ら学習課題について、どこに疑問点があるのかを説明しています。自分で書き込んだ表は、伝えたいことを焦点化して説明でき、聞き手と考えを共有できます。

【事例③：子どもがポイントを静止画でわかりやすく提示する】



顕微鏡で見たものを撮影し、見つけたことを書き込み、一斉に画面に映し出して共有しています。チョークでは表しにくいものも静止画や動画で示すことができます。

今回紹介した実践事例は、ロイロノートの資料箱から閲覧できるようになっています。



→岐阜県土岐市 先生のみ

→O1教育委員会 事務局

→R4 ICT推進委員 実践事例

新しいALTの紹介 「Let's enjoy English, together!」

モリス・メリサ・ヤスコさん

【First name:メリサ】

- ◆土岐津中、駄知中校区の幼稚園・小・中学校担当
- ◆カリフォルニア大学ロサンゼルス校にて、グローバルスタディーズを専攻。留学したシンガポール国立大学にて、アジアについて学ぶ。

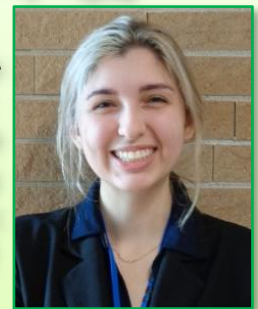


Hello! My name is Morris Melissa Yasuko.
I am from Los Angeles, California.
I studied global studies of UCLA.
I like reading and gardening.

モロビック・マケイラ・リーさん

【First name:マケイラ】

- ◆肥田小中、下石小、妻木小 肥田幼稚園、西部こ園 担当
- ◆カリフォルニア州立大学フラートン校にて、日本語と言語学を専攻。上智大学に留学し、日本文学や芸術を学ぶ。



Hello! My name is Morovich Makayla Lee.
I am from California.
I studied Japanese and Linguistics at CSUF.
I like reading Japanese Literature.

【サマーセミナー、ありがとうございました】

今年度も感染症拡大対策を行いながら、講師の方や会場校の先生方のご理解とご協力の中、無事に終了することができました。ありがとうございました。救急救命講座と特別支援教育講座においては、コロナの感染状況や講師の方の都合で急遽開催ができなくなり、誠に申し訳ございませんでした。

希望制ながら120名の方が参加され、先生方の研修意欲の高さを感じました。受講アンケートからも、講座内容に98%の方が満足、概ね満足と回答いただき、参加者のニーズに応えることができたものと考えます。校長先生からの要望で行いました危機管理講座においては、過去の判例を通して、「子供の命を守り抜く」ことや「教職員の同僚性や信頼関係づくり」の重要性などを学ぶことができました。危機管理意識を高め、危機事案に敏感になる研修会になったのではないかと思います。サマーセミナーの成果が園・学校現場で生かされることを願います。



◆土岐市中学校体育大会 団体結果◆

種目		優勝	準優勝	第3位
陸上	男子総合	土岐津中学校	駄知中学校	西陵中学校
	女子総合	泉中学校	西陵中学校	土岐津中学校
	男女総合	土岐津中学校	泉中学校	西陵中学校
バレーボール	男子	泉中学校	土岐津中学校	濃南中学校
	女子	西陵中学校	土岐津中学校	駄知中・泉中
バスケットボール	男子	泉中学校	駄知中学校	土岐津中学校
	女子	西陵中・駄知中	泉中学校	
ソフトテニス	男子	西陵中学校	泉中学校	駄知中学校
	女子	西陵中学校	肥田中学校	土岐津中学校
卓球	男子	土岐津中学校	泉中学校	西陵中学校
	女子	土岐津中学校	濃南中学校	泉中学校
剣道	男子	西陵中学校	泉中学校	土岐津中学校
	女子	土岐津中学校	西陵中学校	
サッカー		泉中学校	土岐連合	



「待ってられなくてごめんね」

駄知中学校 教頭 長谷川 浩子

初任で勤めた学校は都会の大規模校で、当時、いわゆる生徒指導困難校と言われていました。空き時間には「校内巡回当番」シフトが生まれ、校舎裏やトイレにいる生徒に声をかけて教室に入るよう指導したり、お菓子やガム等のゴミを拾ったりする毎日でした。初任2年目、初めて担任をもたせていただきましたが、学級や生徒のさまざまな問題に直面しました。

その日は学級で問題が起き、生徒を残して話し合いをしていました。下校時刻を過ぎてしばらくしてやっと結論に達し、生徒を下校させました。

その後職員室に戻ると、机上に「待ってられなくてごめんね」と同じ学年の先輩の先生からのメモがありました。初めて担任をもつ私を心配し、

ご家族のために帰宅される時間のギリギリまでいて下さったこと、先に帰ることを「ごめんね」と思って下さる、そのお気持ちがうれしかったことを今でもはっきりと覚えています。

TEAM 学校などという言葉のなかった時代ですが、今の私があるのは、「いっしょに」という気持ちでいて下さった先輩方のおかげです。あの時の先輩の先生に近づけているだろうか、とずっと背中を追ってきました。

教師がひとつになって学校における教育活動や生徒指導上の諸問題に向かうとき、TEAM の力は強くなり、一人一人の教師の力も強くなるのだと思います。



掲 示 板

【土岐市児童生徒科学作品展 金賞受賞者】

さばし さえ (土岐津小1年)	みやち りょうすけ (土岐津小1年)	
かとう こうたろう (下石小1年)	いのう こうせい (肥田小2年)	
三宅 里奈 (肥田小2年)	大はし 晴人 (妻木小3年)	堀 こさと (駄知小3年)
うめ村 光すけ (土岐津小4年)	小山 悠琉希 (土岐津小4年)	伊納 多恵 (肥田小4年)
木全 悠嘉 (土岐津小5年)	野田 善大 (下石小5年)	小山 凜咲希 (土岐津小6年)
武藤 希来乃 (下石小6年)	山野 藤子 (土岐津中1年)	後藤 秀太朗 (土岐津中1年)
依田 悠花 (西陵中1年)	岩本 汰朗 (土岐津中3年)	福岡 仁義 (駄知中3年)

【土岐市社会科課題追究学習作品展】

[最優秀賞] 加藤 るい (下石小5年) [優秀賞] 土川 友佳 (土岐津小5年)、高橋 咲 (泉西小4年)

【土岐市読書感想文コンクール 金賞受賞者】

さばし さえ (土岐津小1年)	みやち りょうすけ (土岐津小1年)	
しのだ いちか (肥田小1年)	かかむ すばる (妻木小2年)	
鈴木 あやな (下石小3年)	日東 輝翔 (駄知小3年)	小山 悠琉希 (土岐津小4年)
長瀬 莉空 (泉小4年)	山本 弥玖 (肥田小5年)	上田 雄斗 (泉小5年)
高橋 ひまり (泉西小5年)	小山 凜咲希 (土岐津小6年)	水野 真希 (駄知中3年)
今井 香歩 (駄知中3年)	高橋 湮 (泉中3年)	後藤 ひかり (泉中3年)



編集 後記

今年度の新企画第3弾、「幼稚園・こども園教育」を掲載しました。(P3) 小学校教育・校長先生の考え(P2)と幼保こ園の教育や考えを互いに共有して、小学校への接続がスムーズに進むことが期待されます。9月より新たに2名のALTの先生が赴任しました。(P9) 子どもたちとの関係づくりや指導される先生との連携がとてもよいという声も届いています。「継続は力なり」子どもたちの努力を紹介しました。(P9.10) 「心にひびく言葉」、同僚性・チーム学校、染み入ります。(P10)